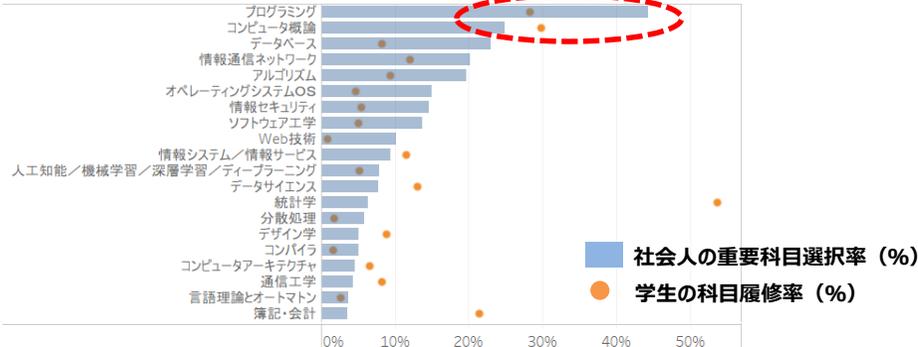


情報関連人材に関する調査結果について (概要)

業務が情報分野に関連している社会人や情報系の職種に携わる社会人等（情報関連人材）のうち、約3,900人を対象に「業務で重要な科目」の類似性に基づくクラスター分析を実施。12万人の学生の履修データと比較し、情報分野における社会人の知識ニーズと学生の学びの状況を比較。

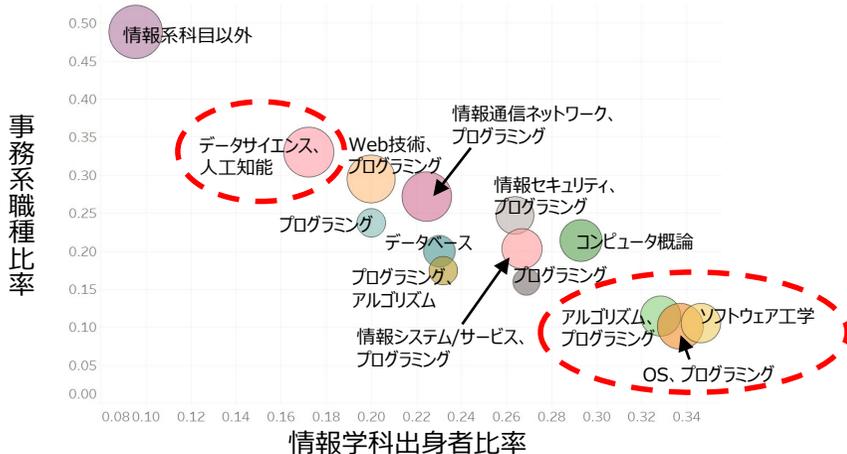
<社会人の重要科目選択率と学生の履修率>

情報関連人材の重要科目を履修した学生の履修状況を見ると、社会人のニーズの高いコンピュータ概論、プログラミングといった情報関連の基礎となる科目の履修率が高い他、データサイエンスの基礎となる統計学の履修率も高い。



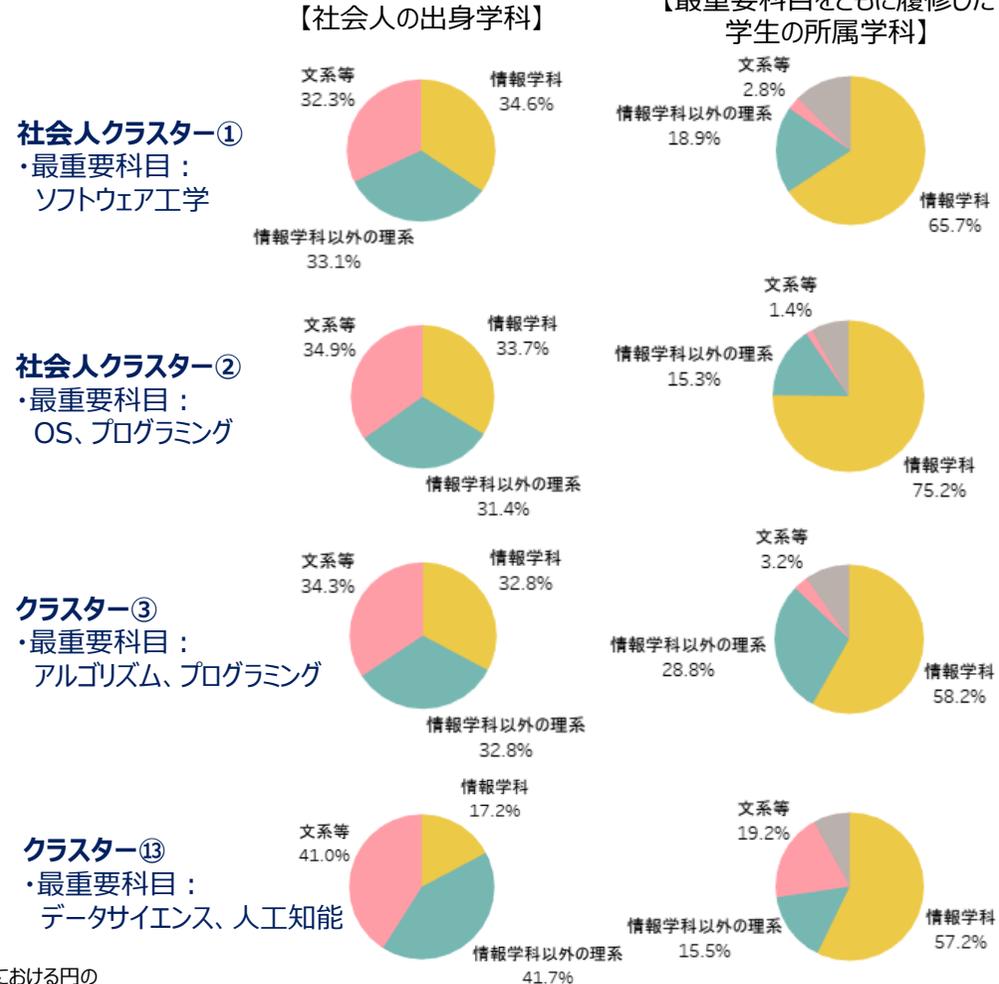
<情報関連の社会人クラスターにおける職種・出身学科比較>

ソフトウェア工学やアルゴリズム等の開発系の科目ニーズは事務系職種の社会人には少ないが、データサイエンス・人工知能といった科目ニーズは情報学科出身者以外の社会人や事務系職種にも存在する。



<各クラスターにおける重要科目と学生の履修状況の比較>

いずれの社会人クラスターにおいても文系等の出身者が3割を超えている一方で、各クラスターにおいて重要とされる科目を学ぶ学生は情報学科をはじめとした理系に多い。



(※) 各クラスターに表示している科目は、最重要科目とされる上位2科目が回答の75%以上を占める1科目。左下図における円の大きさはクラスターの人数を示す。右図における文系等には、福祉・スポーツ・生活・デザイン系、文学・教育系、社会科学系を含む。